

宇多津町議会議長 殿

教育委員会の事務の管理
及び 執行の状況の点検
及び 評価に関する報告書
(平成30年度対象)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定
に基づき報告書を提出いたします。

宇多津町教育委員会

はじめに

I 目的及び制度の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目標に、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることになっています。

II 点検・評価の対象

「平成 30 年度宇多津町教育方針」に基づき、各項目ごとに目指す姿として「施策の目標」との関連で、平成 30 年度の進捗状況について、点検・評価の対象としました。

III 点検・評価の方法

平成 30 年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、「施策の目標」に掲げている項目の点検・評価表を掲載しています。また、点検・評価の客観性を確保するために、「宇多津町教育評価委員会」を開催し、(令和元年 12 月 24 日) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項に規定する学識経験を有する次の方々から、ご意見をいただきました。

氏 名	所 属 等
玉井 正明	香川短期大学名誉教授
会沢 勲	四国学院大学教授
佐藤 隆之	教職経験者 宇多津中学校学校評議員

参考資料 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

目 次

1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進

(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進	
① 学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上	1
② 英語教育・外国語活動の充実	2
③ 情報教育の推進	3
④ 特別支援教育の推進	
・ 特別支援教育	4
・ 教育相談	5
・ 私の成長シート	6
(2) 教職員の資質・能力の向上	
① 町連携協議会の充実	7
② ステージ別研修の充実	7
(3) 安心・安全な学校づくり	
① 実践的な防災教育の実施と防災力の向上	8
② 交通安全教育の充実	9
③ 問題行動等の未然防止・指導体制の充実	10
④ 学校情報・地域情報配信の充実	11
(4) 健康教育の推進	
① 安心・安全な学校給食の実施	12
② 家庭と連携した食育の推進並びに生活習慣病の予防促進	13
③ 基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動の促進	14
(5) 教育施設的环境整備	
① 学校諸施設の整備・充実	15
② ICT化の推進	16

2. 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力	
① 学習等支援体制づくり	17
② 体験活動・交流活動の充実	18
③ 放課後児童の居場所の充実	19
(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成	
① 地域活動への積極的な参加促進	20
② 異年齢交流活動事業の推進	21

(3)	家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり	
①	家庭教育支援体制づくり並びに学習機会の拡充	22
②	家庭教育力の向上	23
(4)	人権尊重の知識を養う人権・同和教育の推進	
①	研修機会の充実	24
②	広報・啓発活動の充実	25
(5)	宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進	
①	地域の伝統文化を学習する機会の充実	
	・ 成人式	26
	・ 宇多津検定	27
(6)	その他	
①	子どもを守るネットワークの整備	
	・ いじめ防止等対策委員会	28
	・ サポートチーム連携協議会	29
	・ 宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会	30
	・ 少年育成センター業務	31

3 活力ある地域コミュニティの育成

(1)	文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進	
①	研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援	
	・ 平成相聞歌	32
	・ 文化財保護	33
(2)	地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実	
①	いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供	
	・ 女性セミナー	34
	・ 宇多津大学	35
②	住民が学んだ成果を住民のために活かす仕組みづくり「知の循環」	36
(3)	スポーツ・レクリエーション活動の充実	
①	指導者養成並びに活動支援体制づくり	
	・ 大松杯バレーボール大会	37
	・ 激励制度	38
②	スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実	
	・ スポーツの推進	39
	・ 子どもロードレース	40

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	① 学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

第三次宇多津町教育連携5か年計画の2年目にあたるこの年は、「対話を通して『誇り・敬意・創意』を育む教育」を念頭に、全国や県の学力・学習状況調査の結果を踏まえつつ、授業改善を目指しての研究実践に取り組んだ。また、家庭や地域においても、学校・家庭・地域が一体となって子ども達を育てていこうとする意識が高まるよう、教育委員会や各校園所のさまざまな行事や会合、広報紙などを通じて啓発活動を行った。

1 本年度の重点課題

宇多津小 : 能動的な学習に向かう課題づくり

… 深く考え、自ら解決したくなる課題、集団で解決する必要性のある課題

「学びの三訓」の重視 … 学習規律を基盤とした学習習慣づくり

学習の「内容」と「過程」を重視し、伸びを実感する振り返りの活動

宇多津北小 : 主体的に学び続けるための課題設定の工夫

「学びの三訓」を重視し、対話を通して「聴き方名人」を目指す指導

「宇北スタイル」の徹底によるノート指導の共通化と基礎基本の徹底

児童の意識を大切にしたい授業と「振り返り」の時間の充実

宇多津中 : 生徒の振り返りの内容を生かした学習課題の設定の工夫

安心して学び合える基盤づくりのための授業形態の弾力的な運用

授業自己評価ツールを生かした授業の振り返り

宇多津幼稚園 : 幼稚園では、人とつながり関わる力を育むため、まず職員間の連携を見直した。

職員の意識の変容により大人も学び、そのことが子どもの「主体的・対話的で深い学び」につながると考えた。

2 家庭・地域との連携の充実と情報発信

学校と家庭の連携・協働(対話)

… 願いの共有、基本的生活習慣づくり、家庭の教育力向上、PTAや子育てサークルとの連携

学校と地域の連携・協働(対話)

… 地域に開かれた学校づくり、地域から学ぶ活動の充実、地域の高等教育機関との連携

地域のボランティア活動や行事への参加、地域の見守り活動、あいさつ運動

目標達成に向けた今後の課題

新学習指導要領の完全実施を間近に控え、町連携においては「主体的・対話的で深い学び」の実現を目標に、各校の共通理解の下に授業改善に取り組みたいと考えている。その際、町全体としての基本方向と各校独自の教育課題に基づく研究課題との関連を持たせることで、研究の質を高め、実効性の高いものにしていくことに配慮したい。

一方、保育所・幼稚園では「幼児期に育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化されてきた。子どもの育ちには家庭や地域の協力が不可欠である。子どもの健全な心身の発達を保障していけるように心に届く発信を工夫していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 宇多津町教育委員会の掲げる「対話を通して誇り・敬意・創意を育む」は、これからの教育のあり方を示す、すばらしい教育理念であり、宇多津町独自の特色ある取り組みと言える。各校園がこの理念を念頭に指導がなされており、結果として「わかる授業」が大きく前進し、児童・生徒の学力と町内各校園の教育水準を高めている。
- ・ 町全体で「授業づくり」の共通理解があり、授業改善に取り組んでいるのがよい。
- ・ 能動的な学習のためにはアクティブラーニングの視点が必要になる。
- ・ 興味・関心は学びの根っこ。子どもたちをひきつけ、気づき考えさせる学習生活環境や掲示の工夫が大切である。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	② 英語教育・外国語活動の充実

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 町教育連携の取組として	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より3年間、中学校の英語科教員が小学校高学年の外国語活動の授業に入りサポートする取組が香川県で始まった。この制度と、本町が文部科学省から指定を受けている「外国語活動に関する特別の教育課程編成」を活用して小学校の全学年で外国語に関わる活動、学習に取り組むことができた。 夏季休業中には中学校と小学校の教員と一緒に小学校の英語活動の指導案作成に取り組み、2学期には実際に小学校で授業を行った。この取り組みを通じて中学校教員は小学校での英語活動の内容を知り、小学校教員は英語活動のアイデアを中学校教員から知ることができ、お互いに良かったという感想を得ることができた。
2. 各学校の取組み	<p>保幼小中の滑らかな接続を実現するための取組や中学校でのオールイングリッシュの授業実践も実施し、英語を使う楽しさを味わう子どもが育ってきている。</p> <p>宇多津小… A L T、担任、外国語活動担当が協力し、全学年で授業を実施できた。また、アンケートを実施して児童の実態を把握し、指導の改善に努めた。</p> <p>宇多津北小… 全校で毎週木曜日の朝にイングリッシュタイムを実施し、英会話体操や英語の歌等を通して英語や外国の文化に関心がもてるようにした。また、選択制で児童英語検定を実施し、日々の外国語活動の成果を自分自身で自覚できる場としている。</p> <p>宇多津中… 中学1年生のコミュニケーションの時間に、小学校で作成した自己紹介カードを用いるなどして、スムーズな接続を意識した授業をしている。また、中学校の授業で使う「Classroom English」を両小学校で紹介し、中学校の授業への抵抗が少なくなるよう配慮した。</p> <p>宇多津幼… 運動会や発表会などの行事の中に「英語であそぼう」で経験した歌やダンスを取り入れた。</p>

目標達成に向けた今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校では、英語が専門でない教員にとって「書くこと」の指導が不安の種になっている。中学校教員のフォローも得つつ、交流活動を充実させながら書く力（表現力）を高めていくための手立てを探っていきたい。 ○ 保育所・幼稚園、小学校と外国語活動を学んできた中学生の英語教育について、今後さらなる研究が必要である。 ○ 小学校までの外国語活動と中学校の英語を直結させるため、中学校の英語教諭とのより効果的な連携のあり方を話し合う。

【学識経験者の意見】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校英語教育のモデル案を小・中合同で作成、小・中の授業見学などの英語教育向上策は県内でも例が少なく、画期的な取組がなされている。連携と小・中一貫性を特色とした宇多津教育の真髓が発揮されている。 ・ 実社会と学校現場とを切り離して考えることはできず、言語能力を身につける基礎となる小学校低学年から英語に親しむことには意味がある。 ・ 中心となって本企画を推進していく役割を、誰がどう担うかの検討が必要だ。 ・ 幼小中の全体で「英語・外国語活動」の授業改善に取り組んでいるのがよい。 ・ 中学校の英語科教員が小学校6年生の外国語活動にコラボしているのは、円滑な接続のために効果的である。 ・ A L Tの人材確保に向けて、行政と教育現場で十分に意見を交換することが大切である。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	③ 情報教育の推進

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 30年度の取組み

- (1) パソコンやタブレットを活用しての情報活用能力を推進した。
 - ・ 体育の授業におけるタブレット利用などICT機器の活用による授業改善の取組み
 - ・ 現職教育における「プログラミング教育」について関する研修
 - ・ 町連携ステージ研修の若年部会においてプログラミング教育の模擬授業を実施した。
 - ・ 教材や提示物のデータを共有化し業務改善に生かした。
- (2) 情報モラルの教育としてスマホ等の使用についての以下の事業を実施した。
 - ・ メディア依存に関する学級PTA等の機会を通じた保護者への啓発
 - ・ ICTサポーターの活用による発達段階を踏まえた継続的なメディアリテラシーの育成
 - ・ 中学校技術科の授業で情報モラルについての学習を行った。社会で話題になっている事例をあげて、メリット、デメリットを考えるグループディスカッションを行った。

2. 次年度以降の取組み

- ・ 次期学習指導要領のプログラミング的思考について研究していく部会を次年度から町教育連携の中に専門部会の一つとして設置する。
- ・ 小学校の校務用及び児童用のパソコンのリース期間満了に伴う機器の更新

目標達成に向けた今後の課題

1. 情報活用能力の向上
パソコンや大型テレビ等を利用した調べや学習の可視化による授業で対話が生まれるような工夫
2. 情報モラル教育の充実
保護者を対象にゲーム依存に対する医療的見地からの講演会の開催
いじめやネットトラブルに巻き込まれないよう教育の充実が求められる。
3. 令和2年度から実施される小学校の次期学習指導要領からプログラミング学習が導入されることになっており、プログラミング的思考を育成する学習指導について研修を進めていかなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・ 令和2年度に始まる小学校プログラミング教育に備えての現職教育は、時宜適切。常に先を見つめて取り組んできた宇多津教育の特色がよく出ている。
- ・ 情報氾濫の中でいかに自分に役立つ有意義な情報を選択して生かすメディアリテラシーの育成に現代最も重要な課題として率先して取り組んでいる。
- ・ 従来の教育に加え、情報化社会において膨大な情報をいかにして活用していくかという視点も必要になってくる。
- ・ この事業は内容が見えにくいので、何らかの形で可視化できないか。ケース（何人かの児童）を追跡するのもよい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～特別支援教育～

平成30年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

【現状】

宇多津町では、特別な教育的支援が必要な子どもが年々増加傾向にあり、各学校（園・所）では子ども1人1人にあった適切な指導を行うように努めているが、専門的な知識を持っている指導者は少なく、対応に苦慮しているのが現状である。そのような中、保育所から中学校までが連携して情報交換を密に行い、また、特別支援教育に携わるものが、県の研修会に参加したり町の部会で研修を積み重ねることにより、指導者の専門性を高め、特別支援教育の指導拡充を目指している。

【各学校の状況】

	H28			H29			H30		
	知的	自閉症	肢体	知的	自閉症	肢体	知的	自閉症	肢体
宇多津小学校	①5	①5	0	①2	②11	0	①3	②9	0
特別支援学級クラス数・児童数	2クラス・10人			3クラス・13人			3クラス・12人		
通級学級児童数	22			24			24		
宇多津北小学校	①5	①6	①1	②10	①6	①1	②9	①6	①1
特別支援学級クラス数・児童数	3クラス・12人			4クラス・17人			4クラス・16人		
通級指導教室（巡回指導）児童数	4			7			5		
宇多津中学校	①5	①4	①1	①2	①4	①1	0	①5	①1
特別支援学級クラス数・生徒数	3クラス・10人			3クラス・7人			2クラス・6人		
通級指導教室（巡回指導）生徒数	—			1			3		

【県・町研修】

- （県）特別支援教育コーディネーター研修会
- （町）教育支援委員会 年1回（H30年度 12月6日）
- （町）臨時教育支援委員会 判定の必要があればその都度（H30年度 1回）
- （町）特別支援教育部会（H30年度 年3回）
- （町）特別支援教育コーディネーターの町内幼稚園・保育所巡回指導
- ※特別支援教育コーディネーター（各校2名ずつ、計6名）

【成果】

各学校（園・所）では個に応じた支援が行われており、全職員が情報を共有し、学校全体で取り組むことができた。また、町教育連携協議会の部会等、園・学校間でも情報交換を十分行い、なめらかな移行ができています。

目標達成に向けた今後の課題

- 専門知識をもった教職員、指導員が少ないので、県研修会に参加していただいたり、町内研修を充実する必要がある。
- 個々の子供に対して十分な指導ができるよう、学校の現状を聞き、可能な限り学校生活支援員の雇用を検討する。

【学識経験者の意見】

- ・ 本町の長所は通級制の指導が可能である点にあり、ここを深化できるといいと考える。
- ・ 特別支援教育は担当者が孤立しないよう配慮が大切。連携と研修、部会による研究が行われ、支援が適切に行われているが、特別支援教育を中心になって推進するコーディネーターの育成とともに一般教員の研修が必要である。
- ・ 配慮を必要とする対象児童生徒についての児童生徒理解が求められるとともに守秘義務が信頼の基礎である。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～ 教育相談 ～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 目的 特別支援学級（学校）に通う児童・生徒及び保護者、発達障害やその疑いのある児童・生徒及び保護者、発達が気がかりな幼児等の保護者を対象に、園（所）・学校・家庭が連携し、幼児・児童・生徒の心身の発達に寄与することがねらい。
2. 年間回数
 - (1) 月1回を原則に、年間13回（4月開始、8月のみ2回）実施。4人程度/回。
 - (2) 8月に実施する2回は、就学相談として、就学前年長児及び保護者を対象に教育相談を希望してきた。また、この教育相談以外にも、保健センターの相談員に依頼して、希望者全員に相談活動を実施している。
3. 実施体制
 - (1) 月1回、午後1時～午後5時までを原則に、各4人ずつの予約制。
 - (2) 11名が継続で年間予約し、学期に1度の割合で相談を行った。
 - (3) 毎回、原則第1番目の枠13:00～14:00を「新規枠」として確保し、対応している。
4. 相談員委嘱者 松本 矩子 先生
 - (1) 所属 発達相談室「まつもと」
 - (2) 資格 言語聴覚士、特別支援学校教員免許
5. 他機関との連携
 - (1) 所属の園（所）・学校
 - (2) 医師、施設等の専門機関

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 新規の相談者募集は、従来を年度初めに1回町広報年間を通じて行っていたが、1学期の下旬に再度募集を行うなど、年度途中での追加募集の方法についても検討してみたい。また、各小学校との連携の方法も見直し、年度途中での受け入れに速やかに対応できるようにしたい。
- ・ 就学前の相談は希望者が増加しているので、可能な限り対応できるよう、実施回数の追加を検討していきたい。
- ・ 8月に実施している「就学時相談」で申込んできた幼児と保護者への働きかけを行い、継続的な支援へとつなげることができればと考えている。

【学識経験者の意見】

- ・ 特別支援学級に通う児童生徒の保護者、発達障がい者の保護者の苦悩は格別。年間13回のカウンセリングは教育委員会の精一杯の支援として評価できる。新たな相談希望者に対する「新規枠」の設定は新たな受け入れ策として適切である。
- ・ 複数のカウンセラーを確保できれば相談者一人あたりの時間の枠を柔軟にすることができ、より望ましいのではないかと。松本先生に加え、公認心理士の活用も検討してはどうか。
- ・ 通級児童・生徒及び保護者、発達障害やその疑いのある児童・生徒及び保護者、発達が気がかりな幼児等の保護者との間に信頼関係を築くことができるかが鍵である。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～ 私の成長シート ～

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 「わたしの成長シート」	<ul style="list-style-type: none"> 公立の保・幼・小と町教委が連携をとり、5月に30年度計画について事前打ち合わせを行った。 また、5月22日に公立私立の保・幼の年長の担任と小・中の特別支援教育コーディネーター、町教委が集まり、昨年度の取組み状況と、30年度の計画及び教育支援委員会の資料作成等について検討した。 昨年度から引き続き次年度入学児童にかかる就学指導として、5月下旬に「わたしの成長シート」を配布した。
2. 「わたしの教育シート」に基づいた教育相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> 「わたしの成長シート」には教育相談の希望の有無を記載する箇所を設けている。平成30年度は、39人の保護者より、相談希望があり、希望者の内、31名について7月～9月に教育相談を実施した。 相談の結果は、所属園・所および町特別支援教育コーディネーターに伝え、今後の巡回指導や資料作成の参考にしていただいた。 教育相談の結果等を参考に、各所、園が教育支援委員会の資料を作成し、委員会で説明を行う。教育支援委員会では、資料をもとに個々の子どもにとって最も適切な指導及び必要な支援が受けられるよう判定された。（特別支援学校3人、特別支援学級4人、通級による指導1人）

目標達成に向けた今後の課題
○教育相談を希望する保護者が、相談を受けやすいような相談体制(会場、相談員の選定)の構築。
○教育相談を受けた保護者が、子育てや就学等についての悩みが少しでも解消できるような相談体制の構築。
○「わたしの成長シート」を十分確認し、相談希望がない保護者についても、問題があると判断される子どもについては、町特別支援教育コーディネーターに相談し、保護者に相談を勧める。

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> 「わたしの成長シート」の取組に、反発なく取り組んでいることがすばらしい。 この方法にうまく乗らない子どもの存在もあるので留意を。 宇多津町教委の支援計画は、苦悩する保護者への温かく充実した支援が感じられる。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(2) 教職員の資質・能力の向上
事業内容	①町教育連携協議会の充実 ②ステージ研修の充実

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1	町教育連携協議会の充実 …… 年2回実施。 (1) 第1回 6月20日(水) 宇多津中学校 13:30~16:30 ・授業参観 全学級での公開授業 ・全体会 宇多津中学校が取り組む共同学習の実践発表 ・ステージ研修 …… (後述) (2) 第2回 10月24日(水) 宇多津小学校・町立宇多津幼稚園 13:30~16:30 ・授業参観 宇多津小 全学級での公開授業 及び授業討議 宇多津幼 4・5歳児 「心と体を動かして～友だちとつながって～」 ・ステージ研修 …… (後述) (3) 情報交換部会 保幼小中の関係教職員が集まり、年間計画に従い2~4回実施。 ① 小1連絡会 ② 中1連絡会 ③ 健康教育部会 ④ 特別支援教育部会 ⑤ 不登校部会 ⑥ 読書指導部会 ⑦ 英語教育部会 (4) 夏季研修 8月6日(月) 宇多津町保健センター4階大研修室 8:40~12:10 ① 人権・同和教育講演会 演題:「みんなですすめる人権・同和教育」 講師: 県教委人権・同和教育課主任指導主事 長友 理 氏 ② 地域保健委員会講話 演題:「『ひきこもり支援』から『不登校支援』を考える」 講師: 県ひきこもり支援センターAndante 主任 村上 三恵 氏
2	ステージ研修の充実 教職員特例法の一部改正を受け、町連携でも年代別の研修を取り入れ、経験年数に応じた共通の課題を持つ教職員どうして研修を深めることで、実践的指導力の向上を図る。 ・若年研修部会 …「学校事故等の事例研修」「先輩の授業に学ぶ」等 ・ミドル研修部会 …「保護者対応について」「組織マネジメント」等 ・ベテラン研修部会 …「校内での人材育成のためのOJTの効果的な進め方」等

目標達成に向けた今後の課題
教職員の働き方改革が声高に取り上げられ、ともすれば「削ること」「軽減すること」のみが重視されがちであるが、実際には教育の質を高めていくために欠かせないものがある。具体的には、次年度以降の課題として次のことに取り組んでいきたい。 ① 授業改善を柱として町連携が目指すものを一元化し、研究を進めること。 ② 新学習指導要領で導入されるプログラミング学習について、小・中の連携を図りながら準備を進めること。

【学識経験者の意見】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の他の市町の追従を許さない、特色のある充実した取組がなされている。特に、情報交換部会は校種の壁を越えて取り組み、教育課題の合同研究と課題の解決に役立っている。 ・ 取り組む姿勢を評価します。今後も信念を持って進めて欲しい。 ・ (3)情報交換部会に ①小1連絡会、②中1連絡会、⑤不登校部会があり、前任者との間の「相互信頼」に基づき「何を」共通理解し、「何を」共通行動し、継続して「だれと」連携していけばよいかを知り、「覚悟」を持って引き継ぐ重要な部会である。 ・ 「学校事故等の事例研修」は、きわめて重要であり、これからの課題と言える。また、町連携の情報交換部会の中に「防災教育」の部会もあっていいのではないか。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	① 実践的な防災教育の実施と防災力の向上

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 防災研修活動	
(1) 教職員研修	<p>シェイクアウト（県民一斉地震防災行動訓練）や避難訓練を実施する前に共通理解を図り、事前指導について協議している。また、職員会等では危機管理マニュアルや校内の避難ルートの見直しなども行われ、いつでも対応できる心構えと危機管理に努めている。</p> <p>(2) 教職員の共通理解のために</p> <p>日赤の救急救命士や坂出消防署の方を講師に招いての心肺蘇生法、AED、エピペンの使用について、すべての学校園での実技研修を検討している。</p>
2. 防災教育 幼・小・中ともに11月の香川県シェイクアウトに参加。	
幼稚園：	<p>保護者にも呼びかけて心配蘇生法や防災頭巾づくりの研修を実施し、家庭の意識を高められるよう啓発活動に取り組んだ。</p> <p>想定した避難訓練や火災を想定しての避難訓練等を実施した。</p>
宇 小：	<p>県下一斉のシェイクアウト訓練に参加し、訓練後プラスワンの指導も行った。また、防災意識を高めるために「地震そのとき…」等の資料を活用し、学級活動の中でも防災教育を行った。</p>
宇北小：	<p>不審者、津波、地震、火災の事象を想定し、年間4回の避難訓練を実施した。また、学習参観日には緊急時の引渡し訓練も合わせて行うほか、登下校時の日常的な見守り活動として、特に1年生は下校ルート毎に教師が引率している。</p>
宇 中：	<p>9月は地震・津波、1月は火災を想定して、事前予告なしの避難訓練を行い、防災頭巾の着用訓練や災害時の対応「おかし+も」原則を確認した。また、11月には香川県シェイクアウト訓練に参加し、地震の際の対応について再確認した。</p>

目標達成に向けた今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> 通常、それぞれの教室で学級の生徒全員がそろった状態で避難訓練を行うが、より実際的な備えの意味では、例えば休み時間に発生した場合を想定した訓練を実施するなどして 職員が臨機応変に判断し、子どもも自分で考えて主体的に動けるような力を身につけていくことが必要となる。 各校園においては多様な場を設定した訓練がそれぞれに計画されているが、心肺蘇生、エピペンの使い方等重要な内容についてはすべての校園で研修できるよう調整を進めたい。特に、温暖化がますます進む中、熱中症の応急処置については必須の課題として取り組んでおく必要がある。 幼稚園においては、同じ敷地内にある小学校との連携を図りながらの引渡し訓練を実施したいと考えている。

【学識経験者の意見】
<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する取組は満点に近い。しかし、この分野は新しい情報や課題が常に加わるので、それらを手に入して活用してください。 マニュアル通りの理解や行動に終わるのでなく、想定外を想定して取り組む、実践と一体化した防災学習をもっと重視すべきではないか。 校外活動では、事前に必ず、現地へ足を運ぶことが重要である。事故対応を想定しておく。 各校園とも教職員の共通理解と事前指導が出来ていて、シェイクアウト、避難訓練が適切に行われている。地震・津波中心でマンネリ化しがちな中で、北小が不審者、地震、津波、火災と各種の訓練を複数回実施していることは高く評価できる。宇多津中学校の、事前予告なしの訓練も緊急時の判断力を養う上で発想を転換した画期的な取組である。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	② 交通安全教育の充実

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

(学校の取り組み)			
	目 標	登下校指導	交通安全教室
小宇多 学多 校津	「自分の命は自分で守る」という安全意識と実践的な態度を育む交通安全指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の立哨指導。 ・担当する地区の危険箇所点検、現地指導 ・リーダー指導、班長会で指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室（6月、1・2年生） ・自転車点検教室（8月、3年生）
小宇多 学多 校津 北	児童の安全に対する意識を高め、交通ルールを守って、安全に生活ができることができる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の立哨指導。 ・担当する地区の危険箇所点検、現地指導 ・安全マップの作成。 ・下校時の交通指導（1年生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室 ・自転車実技指導（1学期、4年生）
中宇多 学多 校津	日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、すすんで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるように	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全確認 ・交通法規の意義と安全についての講話 ・交通事故の加害と被害についての講話 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室（1年生） ・自転車点検
幼宇多 稚多 園津	身に迫る危険を自分の目で確かめたり、耳で聞いて感じたりする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で手をつないで歩き、安全意識を高める。 ・保護者への啓発 ・園外保育の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・こじかクラブ入会式（4月PTA総会） ・交通安全の紙芝居、DVDを見る。（長期休業日前） ・就学前交通安全教室。（2月末）

(組 織 活 動)

PTA・・・立哨指導、地域安全パトロール、学校支援ボランティアによる巡回

交通指導員・・・登校指導

青パト・・・朝、夕の町内巡回

町交通安全プログラムによる合同点検・・・年に1～2回関係者が集まり、学校提出の危険箇所等の情報をもとに、合同点検を実施。

目標達成に向けた今後の課題

- (全体) 合同点検の結果を再度町関係課と協議し、交通安全・防犯対策を行う。
- (全体) 不審者対策として、保護者、学校支援ボランティア、地域の方に人的支援を依頼する。
- (幼) 自分自身で車に気をつけたり、危険を判断して行動ができる子どもの育成。
- (小) 「自分の命は自分で守る」ことができる子どもの育成。
- (小) 自転車の安全指導及びマナー指導。
- (中) 危険回避能力の育成。

【学識経験者の意見】

- ・ 宇多津町は県下一の交通事故発生箇所を始め、危険箇所が多々見られるが、「自分で安全に努める」「組織的活動」の支援の両面からの徹底指導により、児童・生徒の安全が確保されている。
- ・ 校区内の交通状況を把握しておく。町内の登下校の通学路は「大東川」と旧11号線で4区分できる。
- ・ 児童生徒は橋で大東川を渡る。旧11号線は、おか泉前、役場横の信号のある横断歩道へ児童生徒は集まる。
- ・ 接触事故多発地点を現場で理解しておく。事故の連絡を受けたら、現場へ行くことができる教師であってほしい。
- ・ 安全教育で、子どもたちがさらにきちんとした理解を得られるよう取り組んでほしい。
- ・ 朝の登校時は見守りもあり、安全に配慮されているが、下校時は開放感もあり危険な場面も多いのでさらに対策が必要ではないか。中学生の2列並進も

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	③ 問題行動等の未然防止・指導体制の充実

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 文部科学省による調査から

(1)	暴力	対教師	破損	いじめ	解消	不登校	解消	指導中	自殺
小	2	1	0	9	9	2	0	2	0
北	0	0	0	5	5	3	0	3	0
中	20	0	0	26	21	34	3	31	0

調査結果数は左記のとおり

(2) 結果からの考察

前年度と比較して、暴力・いじめ・不登校いずれも特に中学校における人数が際立っている。全般的に、校内の空気そのものは落ちついているが、特に不登校については県下全体で見ても心配な状況にあり、学校全体での抜本的な取組が必要とされる。

2. 生徒指導に対する施策

(1) 校内の組織的努力

- ① 教職員が一体となって、未然防止と早期発見・早期対応にあたるなどの取組や、家庭・地域社会等の理解を得て、地域ぐるみでの取組を推進している。
- ② 「チーム学校」の構築… 県費教職員だけでなく、学校には町講師・支援員等のほかにSC・SSW・SSTなどが配置されており、こうした専門家が役割を発揮して対応している。

(2) 外部専門家を活用した連携による対策

- ① 町においては包括支援センターや少年育成センターとの連携を図って見守りや相談等の活動に継続的に取り組んでいる。
- ② 地域ぐるみの連携として「いじめ防止等対策委員会」や「サポートチーム連携協議会」、民生児童委員や少年育成センターの協力も得ている。
- ③ 事案によっては、児童相談所や中讃保健事務所、家庭支援センター等による、家庭全体への支援も必要な場合もあり、総合的見地からの取組を推進している。

目標達成に向けた今後の課題

宇多津町のみならず、発達障害を抱えた幼児児童生徒による問題行動への対応に追われることが多くなっており、さらにはしつけや子育てに著しく問題を抱える家庭も増えているのが現状である。そうした中で、問題行動のみならず、不登校の問題についてもSSWやSC、支援員等の協力を得ながら指導にあたっているが、今後は、医療機関など専門家との連携を具体的に模索していくことも必要である。

【学識経験者の意見】

- ・ 何より注意して欲しいのは、問題行動を生じるのは障害によるものだけではないということ。したがって、子ども一人ひとりををしっかりと見てほしい。
- ・ 未然防止では、「配慮や理解が必要な児童生徒」を情報共有し、見通せる教室配置や校内巡視を行う。
- ・ 教師間の「報告・連絡・相談」を細やかにいき、一人で抱え込まない、学校だけで抱え込まないこと。特に若い教師に十分なケアを。
- ・ 「事実」と「揣摩臆測」を峻別した記録を残していくことが大切である。
- ・ 暴力、いじめ、不登校に対して、外部専門機関との連携、SC、SSW、SSTの役割が発揮され、対応が適切に行われている。今後は医師、弁護士等との連携も視野に入れてはどうか。
- ・ 学校においては、集団づくりや学級経営を重視し、いじめや問題行動を生まないための土壌づくりにも力を注いでほしい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	④ 学校情報・地域情報配信の充実

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. メール配信の登録 平成30年度メール登録件数 2,060件
 - ・町立の幼稚園、小・中学校の保護者及び学校関係者に、毎年4月又は随時にメール配信（変更）登録を呼びかけ、手続きを行う。
2. 不審者情報の配信
 - ・県警本部からの「子ども安全情報」の提供があれば、教育委員会から不審者情報の配信を行う。
 - ・香川県警察ヨイチスマートメールに登録し、より情報の収集に役立てている。
 - ・宇多津町福祉施策の一環として、認知症などで高齢者の行方不明者が発生した場合の一斉配信にも活用している。
3. 学校からのメール配信
 - ・そのほか災害情報（気象警報等）による登下校時間の変更、臨時休校及び学校行事等の情報について、教育委員会及び各幼稚園、学校からメール配信する。
 - ・平成30年度メール配信件数

学校教育課	61件	宇多津小学校	89件
宇多津幼稚園	2件	宇多津北小学校	62件
少年育成センター	47件	宇多津中学校	19件
		計	280件

目標達成に向けた今後の課題

1. 毎年更新時期に学校に出向き、情報配信登録の手続きの補助や質問を受け付けている。
2. 活用中のヨイチスマートメールについても、多くの情報を得られ対応できている。
3. 昨年度の課題であった課内の職員誰もが配信メールの対応ができるようにするために、メール配信フォルダーを共有に設定したり、マニュアルを見える場所に置くなどした。

【学識経験者の意見】

- ・ メール配信以外の方法の希望も最近はあり、独自のアプリなども検討してはどうか。
- ・ 宇多津町は近隣の市よりも、不審者情報などの情報配信が充実している。
- ・ 不審者情報、災害情報が数多く発信され、教委が安全対策に万全を期していることが窺える。特に、職員の誰もが配信メールの対応ができるようにしている点、十分な取組がなされている。
- ・ 不審者に遭遇した時の具体的な退避行動について学習しておく機会を設定してはどうか。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	①安全・安心な学校給食の実施

平成30年度実施内容
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

○食物アレルギー対応

1. 新入生の対応

就学時健康診断にて、保護者宛に調査票を配布し、アレルギー有無を把握し、給食対応の希望をとる。希望者には関係者による個人面談を行い、医師の診断書を提出してもらおう。

2. 個人面談の決定事項から

①除去食（完全除去、調理過程による除去、非加熱食品の除去）

②代替食によって献立を作成する。

3. アレルギー対応食指示書（栄養教諭作成）により、

栄養教諭、調理委託業者で打合せを行い、対応食について確認を行う。

4. 委託業者への確認作業

必要な食材を購入し、誤配食、誤配送の無い様に確認作業を行う。

5. 保護者への対応

予定献立表を配布し、最終確認を行う。

6. 対象者数（平成31年3月31日現在）

中央保育所 8名、宇多津幼稚園 4名、宇多津小学校 11名

宇多津北小学校 11名、宇多津中学校 12名 計 46名

目標達成に向けた今後の課題

- ・ アナフィラキシーショック発生時に対応するため、香川県小児科医会が作成した、「アレルギー対応緊急マニュアル」に基づき、エピペンを使った研修を継続して行う。
- ・ 対象児童について、校内で情報を共有し、共通理解を図る。他の児童についても、アレルギーに対して理解を深めるように努める。
- ・ マニュアルの運用に当たり、全ての児童・生徒に安全な給食を提供するため、適切に改訂を行う。

【学識経験者の意見】

- ・ 異物混入時の対応がきちんとできているか。
- ・ 学校給食の安全対策が徹底している。希望調査、個人面談、医師の診断と除去食、エピペン研修などが徹底しており、安全・安心の給食が実施されている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	② 家庭と連携した食育の推進並びに生活習慣病の予防促進

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 対象者	小学校・・・4年生（172名） 6月実施 中学校・・・1年生（158名） 6月実施
2. 検査項目と結果	肝機能検査：GOT（AST）・GTP（ALT）・γ-GTP 脂質検査：総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪 糖尿病検査：HbA1c（NGSP） 貧血検査：赤血球数・血色素量・ヘマトクリット ☆一次検査受診者：小学校160名・中学校132名 観察者（要精検査者）：小学校 34名（15名）・中学校27名（2名） ☆二次検査 受診者：小学校29名・中学校0名 観察者（要精検査者）：小学校16名（0名）・中学校0名
3. 個別指導の必要な児童について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談時に保護者と生活習慣の改善について話し合う。 ・ 夏休みに開催した元気っ子クラブは、香川短期大学生活文化学科の協力で11名の参加により、保護者と児童一緒に、香川短期大学の講師による講話を聞いた。食事後に野菜と花の写真を展示し、クイズ形式で組み合わせたりして盛り上がった。 ・ 親子で調理実習 【夏野菜のピッツァ、たまねぎたくさんのオニオンスープ・牛乳かん】
目標達成に向けた今後の課題	
1.	昨年度からの課題である参加率の少ないことで、反省会では少人数でも本来参加して欲しい該当者が参加して、少しでも生活習慣病予防の知識がつくのであれば成果になるのではないかという意見も出た。
2.	夏休みの年1回と実施している元気っ子クラブであるが、夏休みは他の行事と重なりなかなか日程の調整がつかない。来年度は冬休みに実施すると、中学生も参加しやすくなるのではという意見も出た。この小児生活習慣病予防対策事業は、香川県での事業でもあり、小学児童、中学生徒ともに実施していくことが大切である。

【学識経験者の意見】

- ・ 生活習慣病の予防には、生活習慣の根本的な改善が必要で、そこに町としてどう取り組むかが大きな課題である。
- ・ 各種検査の実施と生活習慣改善の事後指導が適切に行われており、県下でも先進的な取組となっている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	③ 基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動の促進

平成30年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
(1) 早朝ラジオ体操	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時 : 夏休み期間中(7/21~8/31) 午前6時30分~ ラジオに合わせて約10分間 ・場 所 : 町内29会場 参加者:1,337人(昨対比▲54人) ・周知方法 : 各幼稚園保育園、小学校、中学校へ出席カードと日程表を配布。 他町広報誌、自治会回覧にて周知。 ・目 的 : ラジオ体操参加により、規則正しい生活を送る。 地域の方や近隣の子どもたちと交流の場を設ける。
(2) 広報誌による「家庭教育啓発月間」	<ul style="list-style-type: none"> ・7月号に家庭教育啓発月間(7月1日~8月31日)の記事を掲載する。

目標達成に向けた今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操の参加者については、若干の減少傾向にある。啓発活動を積極的に行い、ラジオ体操を通して、基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。 ・家庭教育啓発月間では、「早寝・早起き・朝ごはん」や「あいさつ」をはじめとした、望ましい生活習慣づくりに地域一体となって取り組む必要がある。

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの生活習慣の乱れが9月に入ってから不登校や自殺などの増加に影響してしまう恐れもある。その意味で、ラジオ体操は短時間だが、早朝起床の勇気と規律正しい生活、異年齢との交流によって社会性を身につける絶好の機会として、得られるものが大きいように思われる。啓発が適切に行われている。
--

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(5) 教育施設的环境整備
事業内容	① 学校諸施設の整備・充実

平成30年度実施内容		
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。		
校舎等工事及び環境整備		
	工事名・概要	工事費 (円)
(宇多津幼稚園)	工事なし	
(宇多津小学校)	・ 給排水管改修工事	37,044,000
	・ 消火配管漏水修理工事	1,296,000
	・ 給排水管改修工事に伴う樹木の伐採撤去	928,800
	・ グラウンドスプリンクラー散水制御補修工事	310,000
	・ バックネット破損部撤去工事	162,000
	・ ケーブルテレビ導入工事	66,906
(宇多津北小学校)	工事なし	
(宇多津中学校)	・ 会議室エアコン改修工事	1,296,000
	・ 特別教室テレビ改修工事	1,290,600

目標達成に向けた今後の課題
1. 国からは、令和2年度終了までに町内学校施設の個別施設整備計画を作成するようになっている。施設整備計画作成を業者に委託する等、早急に作成し、施設の改修工事等を、優先順位をつけて計画的に執行する必要がある。
2. 今後改修が考えられる箇所 <ul style="list-style-type: none"> ●宇多津幼稚園：遊戯室等カーテンの改修、職員室の配線整理 ●宇多津小学校：消火配管改修、外壁・プレイルーム屋根の改修、トイレ施設整備、テレビ改修 ●宇多津北小学校：校舎外壁改修、体育館外壁・屋根改修、テレビ改修 ●宇多津中学校：相談室・被服室エアコン改修、デジタル自主放送設備整備、体育館排煙窓改修

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの生命に関わるような箇所は早急な対応を。 ・ 宇多津町は諸設備の整備・充実のために積極的に予算化してくれる。 ・ コスト意識をたいせつにして、備品台帳や廃棄台帳を意識していきたい。 ・ 予算と年度計画によって必要とする箇所の環境整備が着実になされている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(5) 教育施設的环境整備
事業内容	② ICT化の推進

平成30年度実施内容							
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。							
1. 30年度の実施内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の全ての教室に大型提示装置(50型)設置が完了 ・ 小学校パソコンリース期間更新の事前調査(校務用・児童用タブレット) 							
2. 次年度以降の実施内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校への大型提示装置及び書画カメラの整備 ・ 小学校パソコンリースの更新(校務用・児童用タブレット) ・ 統合型校務支援システム導入の研究 							
3. 各施設ごとの現状							
・ ハード							
	デスクトップ	ノート	タブレット	印刷機	大判プリンター	画像カメラ	プロジェクター
小学校	4	38	62	4	1	1	0
北小学校	44	47	28	4	0	2	2
中学校	41	43	30	5(内3台更新)	1	0	0
・ ソフト							
	タブレット用	共同学習	ワープロ	ホームページ	授業支援	グループウェア	その他
小学校	ジャストスマイル	ベネッセ	ジャストシステム	ふれあい通信	—	—	
北小学校	ジャストスマイル	ベネッセ	ジャストシステム	—	ネットウィッチ	—	
中学校	ジャストジャンプ	—	一太郎プロ	ふれあい通信	スカイメニュー	ミライム	フィルタリング

目標達成に向けた今後の課題
1. 政府は、2020年までに、児童生徒全員にタブレット端末を配置促進を掲げている。 2. 平成31年度は小学校のパソコン更新があり、さらに2年後の令和3年度には中学校のパソコン更新が予定されている。今後、整備が求められている校務支援システムの導入についても、併せて検討していく必要がある。

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型プリンタや精度の高いプリンタがこれからは必須。一方で、紙代などの経費をどうするかが課題となる。 ・ 大学教育ではワープロや表計算にはMicrosoftのものを使うのが主流になっており、ジャストシステムのものを使われないことが多い。 ・ 教材教具の近代化が着実に推進され、県内でも誇れる施設となっている。 ・ 機器の充実、進化に合わせて、それらを使いこなすための教師の側の研修も充実させていかなければならない。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力
事業内容	① 学習等支援体制づくり

平成30年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
《学校支援ボランティア促進事業》	
1. 事業のねらい	学校支援活動に参加する意欲のある地域住民に、学校と調整・連携を図りながら、学習支援、環境整備等のボランティアに積極的に参加してもらう。
2. 経過と事業の趣旨	本事業は、教育活動支援や環境整備支援など、学校が必要とする支援活動を行い、教員の子どもの向き合う時間の拡充や地域の教育力の活性化を図ろうとするものである。
3. 地域学校協働本部の発足	本年度より、宇多津町地域学校協働本部を設立した。1名の地域コーディネーターを軸に学校と支援ボランティアの連絡・調整を行う体制を構築して事業に取り組んだ。
4. 具体的な取組	<p>①宇多津幼稚園：絵本の読み聞かせ、野菜作り等体験活動</p> <p>②宇多津小学校：授業支援（総合的な学習、生活科、家庭科）、放課後学習支援、読み聞かせ、昔の遊び・暮らしのお話と体験（老人クラブ連合会）、校区内パトロール 登下校支援</p> <p>③宇多津北小学校：読み聞かせ、ふれあいタイム支援、授業支援（家庭科）、校区内パトロール、うどん作り（老人クラブ連合会・おか泉） 登下校支援</p> <p>④宇多津中学校：あいさつ運動、授業支援（技術家庭科）、登下校支援</p>

目標達成に向けた今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> 本年度より地域学校協働本部が発足し、地域コーディネーターを軸に活動を展開している。現在は1名で幼稚園、小学校、中学校の全4施設を担当しているため、多忙な様子が見られる。コーディネーターを増員し、体制の強化を図りたい。 地域住民への認知度が不高いため、活動を周知し、協働活動に参画してもらえる人材を広く募る必要がある。 活動内容の充実を図る。

【学識経験者の意見】
<ul style="list-style-type: none"> 宇多津町地域学校協働本部の設立は、ボランティア活動を円滑かつ合理的に推進する上で大きな前進である。 支援の内容が多彩になり、成果が多彩になり、成果が感じられる。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力
事業内容	② 体験活動・交流活動の充実

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
<p>《うたづ寺子屋》</p> <p>1. 実施日時及び会場</p> <p>平成30年8月28日（火） 西光寺・聖通寺 平成30年8月29日（水） 南隆寺 平成30年8月30日（木） 本妙寺 平成30年8月31日（金） 宇夫階神社</p> <p>2. 実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坐禅・写仏体験教室 ・鎮守の森を守ろうポスター作成 ・英語寺子屋 ・食にまつわるお話 ・お寺の作法を学ぼう ・学校給食センターのお話 ・鹿島踊り体験 ・まち歩き <p>3. 参加人数</p> <p>①申込者数 宇小15名（24名） 北小名（36名） 計名（60名） ②延べ参加者数 宇小43名（91名） 北小117名（130名） 計160名（221名） （カッコ内は前年度実績値）</p> <p>《うたづ寺子屋土曜塾》</p> <p>1. 開催日 平成30年7月21日（土）</p> <p>2. 実施事業 塩づくり体験教室</p> <p>3. 参加人数 児童10名（保護者等を含めて25名）</p>	

目標達成に向けた今後の課題
<p>1. 会場について</p> <p>町内寺社に会場協力について問合せを実施。宇夫階神社、南隆寺、西光寺、本妙寺、聖通寺の5寺社が対応可能との返事をいただく。次年度以降も予定を確認し、会場を決定する方針。</p> <p>2. 実施事業について</p> <p>学校・地域の方々による協力の下で、様々な内容を学ぶことができる場となっている。定例となっている内容のほか、参加者からの声を反映して事業を計画する。</p> <p>3. 実施時期・人数について</p> <p>昨年度は前期と後期に分けて、計6日間開催していたが、本年度は教育週間・今日行く習慣中の開催のみとした。延べ参加人数は減少したものの、1日当たりの参加者数は増加している。</p> <p>4. 新規事業について</p> <p>体験活動の幅を広げるため、塩づくり体験教室を開催した。10名の児童が参加し、学習の機会を提供することができた。課題として、屋外作業であることから、暑さの対策が必要である他、他の事業と日程が重なることから、参加できない旨の意見を頂戴した。次年度の開催については検討を要する。</p>

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が思いのほか多く、安心した。 ・宇多津教育独特の地域的社会的学習は、学校を異にする児童間の交流、人間的成長等に効果が期待される画期的な取組である。聖通寺が新たに加わったことで、町内の由緒ある各寺が出揃ったようだ。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域の教育力を活用した学習等支援＝地域力
事業内容	③ 放課後児童の居場所の充実

平成30年度実施内容
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1 放課後子ども教室（小学4年生～小学6年生）

●スポーツ活動

内容	場所	日	時間	児童数
卓球①	北小学校体育館	毎週水曜日	15:00～17:00	15
卓球②	宇多津小学校第1体育館			9
バドミントン	北小学校体育館			31
ドッジボール	宇多津小学校プレイルーム	毎週水曜日	15:30～17:00	26
		毎週土曜日	13:30～15:30	

●学習

内容	場所	日	時間	児童数
宇多津小学校区	宇多津小学校内	毎週月～金曜日	下校後～17:00	13
北小学校区	北小学校内			16

2 放課後児童育成クラブ（小学1年生～小学4年生）

内容	場所	開設日数 (年間)	時間	児童数 (年間平均)
宇多津放課後 第1スマイルクラブ	宇多津小学校空き教室	276日	下校後～18:00 *延長保育19:00	25
宇多津放課 第2スマイルクラブ				21
宇多津北放課後 第1キッズクラブ	キッズプラザうたづ（児童館）			28
宇多津北放課後 第2キッズクラブ	民有地借り上げ施設			26
宇多津北放課後 ジュニアクラブ	北小学校内			26

目標達成に向けた今後の課題

- 1 放課後子ども教室
 - ・各活動の継続維持子どもたちの対応に適した人材の確保
 - ・指導員資質向上に向けた研修会の実施・参加
- 2 放課後児童育成クラブ
 - ・スマイルクラブ（宇多津小学校区）活動場所の老朽化に伴う危険箇所の点検（専門業者による）
 - ・放課後クラブの活動状況を随時確認・把握し多様化する要望について改善の不可を検討
 - ・児童数に適した活動場所の確保・支援員数の配置
 - ・支援員資質向上に向けた研修会の実施・参加

【学識経験者の意見】

- ・ スポーツと学習をミックスした体力・学力の向上と安全な居場所の確保など、有意義な運営となっている。指導者の適材もあって充実した取組になっている。
- ・ 参加児童と保護者の声を集めて、反映させていってほしい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成
事業内容	① 地域活動への積極的な参加促進

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 具体的実践内容

- (1) 宇多津幼稚園 6月と12月の年2回、町内のクリーン作戦に保護者や家族といっしょに参加することを呼びかけている。全園児での参加率は25.8%。参加した園児には後日、ごほうびシールを配ることで、参加意欲の向上につなげられるようにした。また、月に一度、全園児で園庭の草抜きや石拾いをして、みんなできれいにしようという気持ちを育てている。
- (2) 宇多津小学校
 - ・ボランティア活動について学級活動や道徳、日々の生活を通して話し合い、実践する。
 - 例) 朝の清掃活動 秋の落ち葉拾い 大東川ごみ拾い ボランティア預金の奨励
 - ・うたづっこふくしセミナーに参加し、宇小のボランティア活動を地域に発信した。
- (3) 宇多津北小学校
 - ・「ちょボラ活動」によるハート貯金の推進や赤い羽根共同募金等の活動への参加。
 - ・全校児童による年間2回の学校周辺のクリーン作戦、及び町内のクリーン作戦への参加。
- (4) 宇多津中学校
 - ・6月と12月に行われる年2回の町内一斉清掃に参加し、家族や地域の方々と触れ合いながら自治会内を楽しく清掃している。
 - ・夏休みには、全員の生徒が高齢者・障がい者・乳幼児施設など約40種類の中から希望する日、場所や内容のボランティア活動を選び、活動している。
 - ・町内の各種行事への中学生ボランティアとしての参加
 - 例) 日曜サロンと日曜市 ・うたづの町家とおひなさん ・北小フェス など
 - ・ボランティア委員会の常時活動として全校でエコキャップ回収活動に取り組み、昨年度までに約287万個のエコキャップを回収できた。

2. ボランティア銀行に贈呈されたハート数と各団体への贈呈品

- | | | |
|-------------|------------|---------------------------------|
| (1) 宇多津小学校 | 228,523ハート | ケハクスマイルハート21に楽器等、すまいるケセンターにかかる他 |
| (2) 宇多津北小学校 | 440,735ハート | 陽だまり食堂に卓球台等、寿楽荘にホワイトボード・絵本 他 |
| (3) 宇多津中学校 | 239,300ハート | いきいき荘に卓上ホケ、陽だまりデパートに日用品 他 |

目標達成に向けた今後の課題

- ・朝のあいさつボランティアにも取り組んでいるが、ボランティアの生徒が挨拶をしても返事が返ってこない場面が多々見られるのが現状である。全校での課題として各学級や部活動への広がりを目指したい。
- ・小学校では校内での活動が中心になっているが、さまざまな機会に活動の意義や目的を学び、意識が高まっていく中で、活動の範囲が広がっていくことを期待したい。
- ・ポイントやカードをもらえなくても変わらず活動を続けられるよう、本当のボランティアについて考え自ら実践していける、豊かな心の育成に努める。

【学識経験者の意見】

- ・各校園がボランティア活動を積極的に推進しており、地域への貢献を通して「豊かな心」を育成する有意義な取組がなされている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成
事業内容	② 異年齢交流活動事業の推進

平成30年度実施内容																																																			
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。																																																			
<p>< 子ども会活動 ></p> <p>1. 町補助金 年間595,000円(町制120年のため昨年度対比+100,000円)</p> <p>2. 加入者数 幼 児：28名(昨対比+5名) 小学生：168名(同▲28名) 中学生6名(同▲7名) 育成者：163名(同+12名) <u>合 計：365名(同▲18名)</u></p> <p>3. 単位子ども会数 8単会(昨年度より増減なし)</p> <p>4. 町子連 異年齢交流活動実施事業</p> <table border="0"> <tr> <td>平成30年 6月17日(日)</td> <td>ニューソフトバレーボール大会</td> <td>…</td> <td>98名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年 6月23日(日)</td> <td>田植え体験教室</td> <td>…</td> <td>50名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年 7月29日(日)</td> <td>親子ふれあいデイキャンプ</td> <td>…</td> <td>44名</td> <td>(台風の為中止)</td> </tr> <tr> <td>平成30年 8月 4日(土) 5日(日)</td> <td>一泊キャンプ</td> <td>…</td> <td>14名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年 9月 9日(日)</td> <td>海上防災親子教室</td> <td>…</td> <td>24名</td> <td>(雨天の為中止)</td> </tr> <tr> <td>平成30年10月21日(日)</td> <td>稲刈り体験教室</td> <td>…</td> <td>53名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年10月27日(土)</td> <td>太鼓台運行事業</td> <td>…</td> <td>58名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年12月 2日(日)</td> <td>ドッチボール大会</td> <td>…</td> <td>101名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年12月25日(火)</td> <td>もちつき大会</td> <td>…</td> <td>39名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成31年 2月17日(日)</td> <td>わくわくイベント「逃走中」</td> <td>…</td> <td>80名</td> <td>計503名</td> </tr> </table>		平成30年 6月17日(日)	ニューソフトバレーボール大会	…	98名		平成30年 6月23日(日)	田植え体験教室	…	50名		平成30年 7月29日(日)	親子ふれあいデイキャンプ	…	44名	(台風の為中止)	平成30年 8月 4日(土) 5日(日)	一泊キャンプ	…	14名		平成30年 9月 9日(日)	海上防災親子教室	…	24名	(雨天の為中止)	平成30年10月21日(日)	稲刈り体験教室	…	53名		平成30年10月27日(土)	太鼓台運行事業	…	58名		平成30年12月 2日(日)	ドッチボール大会	…	101名		平成30年12月25日(火)	もちつき大会	…	39名		平成31年 2月17日(日)	わくわくイベント「逃走中」	…	80名	計503名
平成30年 6月17日(日)	ニューソフトバレーボール大会	…	98名																																																
平成30年 6月23日(日)	田植え体験教室	…	50名																																																
平成30年 7月29日(日)	親子ふれあいデイキャンプ	…	44名	(台風の為中止)																																															
平成30年 8月 4日(土) 5日(日)	一泊キャンプ	…	14名																																																
平成30年 9月 9日(日)	海上防災親子教室	…	24名	(雨天の為中止)																																															
平成30年10月21日(日)	稲刈り体験教室	…	53名																																																
平成30年10月27日(土)	太鼓台運行事業	…	58名																																																
平成30年12月 2日(日)	ドッチボール大会	…	101名																																																
平成30年12月25日(火)	もちつき大会	…	39名																																																
平成31年 2月17日(日)	わくわくイベント「逃走中」	…	80名	計503名																																															

目標達成に向けた今後の課題
<p>< 組織について ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会会員数は減少傾向にある。要因として、少子高齢化、習い事に通う子どもの増加、共働き世代が増えたこと等が考えられる。 ・現在の募集手段としては、町広報誌への掲載、年度初めに両小学校へチラシ配布である。会員数増加に向け、従来の手段以外で募集することも必要か。 ・ジュニアリーダーは、異年齢交流において重要な存在であり、意義をより伝えるべく、一体となるような事業を画策しなければならない。

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流事業は、核家族化が進行している中で自分の殻に閉じこもりがちな児童生徒に、地域の中に自分が活動する場を見出すとい、まさに地域の一員としての自覚と行動を育てる絶好の機会である。本来、主体となるべき中学生の参加が少ないこと、前年度に比べて半減していることは残念であり、参加の意義を理解させる工夫が必要である。 ・他の自治体のお手本となっている。
--

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(3) 家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり
事業内容	① 家庭教育支援体制づくり並びに学習機会の拡充

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 学習機会の効果的な提供 就学時健康診断や保護者会、参観日など、多くの保護者が集まる機会を活用した学習機会を作る。

宇多津幼稚園 ・6/13「家庭教育学級並びに給食試食会及び給食参観」 参加者:65名

講師: 川田行雄 先生

・9/29「メンズプレイデー」 参加者:146名

講師:糸川艶子先生、大石美根子先生

・2/5「家庭教育学級」 参加者:70名

講師: 川田行雄 先生

・「いのちの誕生」出前講座 参加者:58名

講師:ぼっこ助産院 田中幸子先生、鈴木佳奈子先生

宇多津小学校 11/1「平成31年度入学周知会、家庭教育学級」 参加者:65名

講師:香川短期大学 次田 一代 先生

宇多津北小学校 11/8「平成31年度入学周知会、家庭教育学級」 参加者:105名

講師:香川県教育委員会 生涯学習・文化財課 森 多佳司 先生

目標達成に向けた今後の課題

- ・社会全体で、人間関係が希薄になる中、親子の育ちを支える機会が少なくなっている。学習の機会を通じて、「家庭教育支援の充実」を積極的に進める。
- ・就学時健康診断や保護者会、参観日など、多くの親が集まる機会を活用し家庭教育学級を開催する。
- ・園児や小・中学生の親子を対象に講演会を積極的に進める。

【学識経験者の意見】

- ・ 家庭・地域との連携、「開かれた学校」の推進は学校園所の必須の課題。参加者が大きく落ち込んだ学校があるのは残念だが、一方で、宇多津幼稚園と宇多津小学校が家庭教育学級を実施したことは高く評価される。
- ・ 川田講師は思春期の問題行動などに高い知見をお持ちなので、幼稚園だけでなく小学校や中学校でもぜひ講師をお願いして欲しい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(3) 家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり
事業内容	② 家庭教育力の向上

<p>平成30年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。</p>
<p>《 家庭教育の啓発 》</p> <p>1. さぬき安心安全ネット指導員による学習会 さぬきっ子安全安心ネット指導員（県教育委員会教育長から委嘱された指導員）により学習会を開催。</p> <p>12/3宇多津中学校入学周知会日にあわせて小学校6年生児童と保護者等を対象に開催。 （参加人数400人）</p>

<p>目標達成に向けた今後の課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会で人間関係が希薄になっている中、親子の育ちを支える機会が少なくなっているため、今後とも実施する。 ・ 家庭の日を設け、町全体の取組として家庭での食事や家庭学習の充実など、現在の課題とされている部分について考えるきっかけにしていく。

<p>【学識経験者の意見】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇多津町にはここでも手本となってほしい。人材の活用という点から、もっと外部の力を活用してもいいのではないか。 ・ 異なる校種への入学には希望と不安が交錯しています。適切な時期に指針を示した意義は大きい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(4) 人権尊重の意識を養う人権・同和教育の推進
事業内容	① 研修機会の充実

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 香川県人権・同和教育研究協議会の開催する研修会、研究大会に参加 ・ 6月 坂出綾歌企業人権・同和教育推進協議会の開催する研修会に参加 ・ 7月 第65回四国地区人権教育研究大会に参加（高松市） ・ 11月 第70回全国人権・同和教育研究大会に参加（大阪市） ・ 8月の「同和問題啓発強調月間」に宇多津町人権・同和教育推進協議会総会及び研修会を開催し、講演会・啓発DVD視聴などの研修を実施。 	

目標達成に向けた今後の課題	
<p>1. 啓発対象者について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在行っている研修会の参加者は、教育委員、人権擁護委員を中心とした各種委員の他、企業からの参加者が主なものとなっているので、今後は対象者をもう少し広くした研修会を実施していく。 <p>2. 研修の題材について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇多津町人権・同和教育推進協議会総会研修会では、「地域でよく生きる～当事者として、経営者として思うこと～」と題して、社会福祉法人ラーフ 理事長 毛利公一氏に講演いただいた。今後ともその年にあった内容を精査して講演会を開催していきたい。 	

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 各研修会の内容をぜひフィードバックさせて、啓発活動に役立てて欲しい。 ・ マネリズムは同和教育の最大の障がいである。指導者研修が適切に行われているが、さらに充実を。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(4) 人権尊重の意識を養う人権・同和教育の推進
事業内容	② 広報・啓発活動の充実

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

○ 人権作品展の開催

1. 内容

宇多津町立の保育所・幼稚園・小学校・中学校においては人権尊重の教育を推進しており、その学習成果の一端を展示し、人権尊重への認識を深めるとともに、住民への人権尊重の啓発を行う。

2. 出品者

宇多津町立保育所・幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒

3. 出品物

ポスター、標語、習字、作文、詩、その他軸に貼れるもの

4. 人権展

- 人権作品展・・・期間：9月14日（金）～9月30日（月）

会場：ユープラザうたづ エントランスホール

広報・周知：広報7月号において、開催に関する記事を掲載。

- 「私の考えを語る会」人権展・・・各園・学校より2作品ずつ展示 日時：11月14日（水）

会場：坂出市民ホール

○ 『人権・同和教育だより』の作成

1. 内容

世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」とし、毎年12月10日を最終日とする1週間（12月4日～12月10日）を「人権週間」と定めている。

この人権週間にあわせて、坂出市、綾川町、宇多津町では、地域で人権尊重の認識を深めるためにパンフレットを作成している。

- 今回の記事の担当 部落差別の解消について・・・坂出市

職場におけるハラスメントについて・・・綾川町

「LGBT」～新たな人権課題～・・・宇多津町

- 『坂出市人権展』出品の町立幼稚園、小学校、中学校の園児・児童・生徒のポスターや習字の作品を掲載

2. 作成物

「人権・同和教育だより」を8,600部作成し、12月広報にあわせて町内全戸に配布する。

○その他の広報・啓発状況

- ・町広報誌に人権・同和教育の啓発記事を掲載（住民生活課）
- ・町職員及び人権・同和推進委員研修会開催（住民生活課）

目標達成に向けた今後の課題

『人権展』について

（29年度からの継続課題）スペースがあれば、人権作品だけでなく町の人権・同和教育についての取り組み等を掲示すれば人権尊重の啓発できるのではないか。

『人権・同和教育だより』について

今回、宇多津町は「LGBT」に関する記事を担当したが、タイムリーな人権課題であり、町広報誌の関連記事も含め、今後、町で人権課題のひとつとして、取り組んでいきたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 全世代への人権の啓発が適切に行われており、実施内容も充実している。
- ・ LGBTに対する取組は県内でも先駆けとなっている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(5) 宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進
事業内容	① 地域の伝統文化を学習する機会の充実 ～成人式～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 日 時 : 平成31年1月13日(日) 13:30~14:00
2. 開催場所 : ユープラザうたづ
3. 対象者 : 平成10年4月2日~平成11年4月1日生まれの男性118名、女性117名
4. 参加人数 : 男性88名(昨対比+18名)、女性80名(同+17名) 計168名
5. 内 容 : 町長式辞、来賓祝辞、成人代表誓いのことば、恩師の先生方からメッセージ動画
6. 費 用 : 587,469円(記念品代156,600円、記念写真代165,240円、会場借上料102,470円等)
7. 実行委員会 : 8月10日をはじめに、計5回行った。
 - 担当者役割分担
 - ・司会(式典等の司会)
 - ・誓いのことば(謝辞)
 - ・受付(資料の封入、受付・配布、来賓へ花をつける)
 - ・広報原稿(2月号広報の原稿)
 - ・アトラクション(準備・片付け・操作)
 - ・パンフレット(表紙のデザイン)
 - アトラクション内容
 - ・抽選会
 - ・恩師ビデオメッセージ
 - 記念品内容
 - ・印鑑ボールペン

目標達成に向けた今後の課題

1. 参加率について

本年度の参加率は71%(昨対比+13%)と大きく増加した。3連休(土~月)の日曜日の午後から式典が行われること、新成人が主体となつての取組みのため、効率的な呼びかけができること等が参加率の促進につながるものと資料ものと考えられる。今後についても、成人の代表者とともに成人者の意見を聞きながら進めて、多くの参加者が成人式に参加できるよう努めたい。
2. アトラクションの選定

式典終了後に抽選会、恩師の先生方のメッセージ動画を上映。抽選会の景品選定、動画の作成は新成人が作成した。事務局として、新成人の満足する式典となるように支援していきたい。
3. 運営

成人式を新成人にとって自立するための一つの節目とし、町の出身者として郷土愛を育むため、より自主的な運営を図りたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 成人式は新成人の出席があつて成り立つもの。過去5年間で最高の71%の出席率と充実したスケジュールなど成功だった。
- ・ 実施日も新成人が参加しやすい日が選ばれている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(5) 宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進
事業内容	① 地域の伝統文化を学習する機会の充実 ～宇多津検定～

平成30年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 日時	平成31年2月15日(金)
2. 場所	宇多津中学校各教室
3. 対象者	宇多津中学校1, 2年生 304名(1年生151名、2年生153名 前年対比15名減)
4. 合格者	37名(1級:3名、2級:14名、3級:20名) 合格率12.1% 前回合格者59名 平均点54.20点(1年生:54.44点、2年生:53.95点) 前回51.71点
5. 出題範囲	古街関連 農業、漁業、塩業 観光関連、おひなさん 町の歴史、祭り関連、文化財 宇多津町出身者
6. 結果	試験範囲: ちょうどよい57%、もっと狭くするべき34% 問題数: ちょうどよい67%、多い23% 難易度: 難しい45%、普通51%

目標達成に向けた今後の課題	
1 実施の時期	本来の目的においては全生徒の受験が望ましいが、3年生は高校入試の直前となるため、受験対象外としている。
2 出題範囲について	予習帖を活用することで、特定の分野において知識を得ることができている。 検定本全体では範囲が広いため、出題範囲を限定して周知している。準備には朝読書の時間を1週間程度使用し、熱心に勉強する子は本を持ち帰り、家庭でも学習している。
3 目的の再確認と情報の更新	地元の歴史・文化を知ることは、郷土を愛するために必要である。しかし、他市町がご当地検定を取りやめていく中、現在の検定本の見直しや、対象者を小学生まで拡大すること(小学校用検定本の作成も含めて)の検討、インターネットでの検定実施を導入することなど、本町においても総合的な面から検討していく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 郷土を愛し、発展のためには宇多津の文化、歴史、産業、観光等各分野の理解が不可欠である。宇多津の独自性を発揮した意義ある行事である。
- ・ この事業は続けることも大切。出題範囲や問題数については主体性をもって判断していけばよい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) その他
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～いじめ防止等対策委員会～

平成30年度実施内容										
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。										
<p>宇多津町いじめ防止条例に基づき、いじめ防止対策等委員会を開催 平成30年度宇多津小学校の児童にいじめ防止のポスターの作成を依頼しその中から選考。 標語は、「みんな笑顔で いじめゼロ」を継続して使用</p> <p>1. 宇多津町いじめ防止等対策委員会の開催 平成30年8月8日</p> <p>(1) 委員の構成 委員4名</p> <p>(2) 内容</p> <p>①小中学校のいじめ防止の取り組みと現状について</p> <p>②各委員から</p> <p>2. 平成30年度のいじめの発生状況</p> <table border="0"> <tr> <td>宇多津小学校</td> <td>9件</td> <td>3年1件、4年2件、5年3件、6年3件</td> </tr> <tr> <td>宇多津北小学校</td> <td>5件</td> <td>2年2件、3年1件、4年2件</td> </tr> <tr> <td>宇多津中学校</td> <td>26件</td> <td>1年8件、2年14件、3年4件</td> </tr> </table>		宇多津小学校	9件	3年1件、4年2件、5年3件、6年3件	宇多津北小学校	5件	2年2件、3年1件、4年2件	宇多津中学校	26件	1年8件、2年14件、3年4件
宇多津小学校	9件	3年1件、4年2件、5年3件、6年3件								
宇多津北小学校	5件	2年2件、3年1件、4年2件								
宇多津中学校	26件	1年8件、2年14件、3年4件								

目標達成に向けた今後の課題
<p>いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に取り組んでいるものの、平成30年度は昨年に比べ8件の増加となった。不登校対策には学校挙げて当たり、次の点について特に留意していきたい。</p> <p>1. いじめはどの子どもにも起こり得るということを踏まえ、未然防止の徹底を図る。</p> <p>2. 普段の学校生活や生活アンケートなどで、いじめの兆候となるものを見逃さず、早期の発見、早期解決を図る。また、アンケートのとり方についても、子どもが正直に書きやすいように常に見直しをしていく必要がある。</p> <p>3. 不登校気味になっている児童生徒への対応、原因の把握</p> <p>4. 学校いじめ防止基本方針のホームページでの公開、各年度開始時の保護者への説明</p>

【学識経験者の意見】

<ul style="list-style-type: none"> 今のところ大丈夫だと感じるが、この件は思わぬところで大きな問題となる。福祉課の範疇に入ることも含めて、予防的に動いておくべきである。 いじめ対策に熱心に取り組んでいるが、根絶の難しさが感じられる。組織としての対応が必要である。 きちんとした解決を図るための体制の中に、カウンセラーの活用を位置づけてはどうか。
--

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) その他
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～サポートチーム連携協議会～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 宇多津町サポートチーム連絡協議会について

宇多津町立学校に通学する児童又は生徒の問題行動が発生した場合、学校、教育委員会及びその他関係機関が協力し、解決に向けた具体的な支援策の検討及び実施の適切な対応を図るためにネットワークシステム(連携協議会)を構成する。

2. 平成30年度「宇多津町サポートチーム連携協議会」の開催

(1)日時:平成30年6月28日(木) 14:00～

(2)場所:宇多津中学校体育館ミーティングルーム

(3)参加構成機関:坂出警察署生活安全課、宇多津交番、町少年育成センター、主任児童委員
町保健福祉課相談支援センター、各小・中学校、スクールソーシャルワーカー
町PTA連絡協議会、町サポート指導員、町教育委員会事務局 参加人数 17人

(4)内容(情報交換及び成果と課題)

- ・学校……小学校:生徒指導状況、生徒指導上の課題(長欠児童、虐待・ネグレクト、いじめ)
中学校:生徒指導状況報告(全体として、問題行動、不登校の状況、交通事故の状況)
- ・坂出警察署(宇多津交番)……坂出署管内の非行少年検挙補導状況
(刑法犯少年、窃盗犯少年、万引き少年、不良行為少年)
- ・少年育成センター……宇多津町少年育成センター活動年間集計
(街頭補導状況、相談状況、環境浄化活動、不審者情報)
- ・主任児童委員……かかわっている町内の子どもについて
- ・町PTA連絡協議会……最近の子どもの現状

目標達成に向けた今後の課題

- 小学校・・・ 学校全体としては大きなトラブルや保護者からのクレームはほとんどないが、ネグレクトの問題や、兄弟共に不登校のケースがある。関連機関と連携して取り組む必要がある。
- 中学校・・・ 全体としては落ち着いて学校生活が送れているが、生徒間暴力やいじめも数件発生している。最近、携帯電話を介したトラブルが多発しているので、まずは学校で情報を共有し、対応していく。保護者にも子どもの現状を把握していただき、協力をお願いしたい。
- 少年育成センター・・・ ネグレクトや虐待等些細な情報があれば、学校や関係機関に連絡する。
- 全体・・・ 問題が大きくなってからでは手遅れなので、連絡を取り合い、連携して問題に対応する必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 包括的なスケールの大きい情報交換会が組織され、問題行動を見逃さない姿勢が窺える。
- ・ 情報の共有にとどまらず、指導、相談、カウンセリング、家庭との話し合いなど具体的な取組が必要である。
- ・ 多くの職種がきちんと揃っている。心理学関係の専門家は必ず入っているべきだと思うので、ぜひ検討してほしい。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) その他
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～ 宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会 ～

平成30年度実施内容																												
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。																												
宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会	平成30年5月24日 13:30～																											
1. 児童部会																												
(1) 児童相談種別件数 (H30)	(H29) 153件																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">養護</th> <th>障害</th> <th>非行</th> <th colspan="2">育成</th> <th colspan="2">その他</th> <th>計</th> </tr> <tr> <th>児童虐待</th> <th>その他</th> <th>発達障害</th> <th>ぐ犯触法</th> <th>性格行動</th> <th>不登校</th> <th>特定妊婦</th> <th>その他</th> <th>153件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78</td> <td>28</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>35</td> <td>181</td> </tr> </tbody> </table>	養護		障害	非行	育成		その他		計	児童虐待	その他	発達障害	ぐ犯触法	性格行動	不登校	特定妊婦	その他	153件	78	28	1	9	11	6	13	35	181	
養護		障害	非行	育成		その他		計																				
児童虐待	その他	発達障害	ぐ犯触法	性格行動	不登校	特定妊婦	その他	153件																				
78	28	1	9	11	6	13	35	181																				
(2) 虐待への対応	78件 (H29) 62件																											
(3) 要保護児童対策協議会																												
①実務者会：月1回定例開催し、要保護児童、特定妊婦、DVなどの個別事例について、関係機関多職種に参加で、支援状況などについて情報交換し、課題の共有、役割分担等を行う。																												
②進行管理会：年2回、上期と下期に分けて、実務者会で検討している事例について、主担当機関で援助方針の確認や見直しを行う。																												
③個別ケース検討会 H30 22回 (H29) 17回																												
児童虐待など要保護児童及び家庭への支援過程において、情報の共有、課題の整理、支援の環境の変化や問題発生など協議が必要と判断された場合、支援している関係機関に集まってもらい個別ケース検討会を開催し、情報の共有、課題の整理、支援の方向性を検討する。 【主たる相談種別】身体的虐待 心理的虐待 ネグレクト 不登校その他の養護相談																												
(4) その他の取り組み																												
①宇多津町教育連携協議会 夏季研修会 H30 8.6開催 117名 講演：「ひきこもり支援」から「不登校支援」を考える 講師：香川県引きこもり地域支援センター（精神保健福祉センター内） ひきこもり支援コーディネーター 村上 三恵氏 ひきこもりサポーター 加藤 正起氏																												
②児童虐待防止の普及啓発 ・虐待防止キャンペーンポスター町内施設、学校等に配布 ・11月 児童虐待防止推進月間における啓発																												
2. 講演会「子どもの生活に関する諸問題」 H30 5.24開催 43名 香川県子ども女性相談センター地域連携支援室 室長 藤原 誠氏 【関係機関】西部子ども相談センター、中讃保健福祉事務所、教育委員会（学校・幼稚園・保育所） 医療機関、障害者、談支援事務所、民生委員、町健康増進課、町保健福祉課																												

目標達成に向けた今後の課題
1. 本業務について 保健福祉課の相談支援センターが中心となって、各機関・団体の連携によって、各家庭への支援の仕方やその子どもへの対応について検討するもので、教育委員会独自の事業ではないが、連携して情報交換、家庭訪問等を行なう。学校からケース会の要望があれば、開催の有無も含め連携協議。
2. 今後の課題（保健福祉課から） ・毎年虐待件数が増えている。 ・児童も障害者も高齢者も孤立しないよう地域で見守り、互いに助け合い支えあう地域づくりの取り組みが求められる。

【学識経験者の意見】
・ 相談に関して複数の機関が関わることで課題への主体的取組を曖昧にしないか危惧している。窓口の一本化は必要ではないか。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) その他
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～ 少年育成センター業務 ～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1 巡回指導活動

育成指導員数	補導回数 (年間)	延べ人数 (年間)	補導状況					
			道交法違反	たむろ	帰宅促し	危険行為	ゲームコーナー 声かけ	合計
64名	181回	583人	中学生 男	10	女	2		
			高校生 男	2	女	2		
			中学生 男	5	女			
			就学前 男	1	女	6		
			小学生 男	33	女	10		
			中学生 男	1	女	11		
			高校生 男	3	女			
			小学生 男	8	女	1		
			中学生 男	5	女			
			高校生 男	5	女			
			一般 男	2	女			
			就学前 男	2	女	3		
小学生 男	35	女	7					
中学生 男	11	女						
高校生 男	2	女						
合計	男	125	女	42				

* 下校中の児童生徒への声かけ…小学生 (男489・女435) 中学生 (男159・女154)

2 相談活動 (年間28件)

月	相談者 (対象者)	内容	月	相談者 (対象者)	内容
4	学校関係者 (中3男子)	不登校	11	母親 (小1男子)	不登校
6	学校関係者 (中2女子)	支援センターについて	12	学校関係者 (小6女子)	不登校
	学校関係者 (中2女子)	ケース会		母親 (小1男子)	不登校
	学校関係者 (中2女子)	支援センター見学		母親 (小1男子)	不登校
7	本人・母親 (中2女子)	支援センター体験	1	母親 (小1男子)	
	本人・学校関係者 (中2女子)	支援センター通所相談		母親 (小6女子)	
8	関係機関	放課後児童クラブ	1	関係機関 (小3男子)	不登校
	関係機関	夏休み活動視察		本人 (高1男子)	進路
9	本人・母親 (中1男子)	不登校	2	母親 (小6女子)	不登校
	本人・母親 (中3男子)	進路		母親 (小3男子)	担任との関係
	学校関係者・関係機関 (中1男子)	ケース会		本人・母親 (中2女子)	友だち関係
10	学校関係者 (小6男子)	不登校	3	本人・母親 (中2女子)	不登校
	本人・母親 (小1男子)	担任の不信任			
	本人・母親 (小6女子)	支援センターについて			
	母親 (中3男子)	不登校			

3 環境浄化活動 白ポスト回収数 (年間) 本 (267) ビデオ (70) DVD (236) 合計 (573)

4 広報・啓発活動 青少年健全育成活動における地域・関係機関との連携

5 教育支援センター活動 学校復帰へ向けた支援

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 地域全体の目で子どもたちを見守る意識の呼びかけ
- ・ 関係機関と連携を密にし青少年問題行動の早期発見
- ・ 不登校についての相談数増加に伴う教育支援センター体制の充実

学識経験者の意見

- ・ 夜間の徘徊は問題行動の入り口であり、補導 (帰宅促し) の成果が感じられる。相談件数も多く育成センターの機能が十分に発揮されている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進
事業内容	① 研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援 ～ 平成相聞歌 ～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 事業内容

- 香川短期大学との連携事業「若者が集う文化のまちうたづ実行委員会」をたちあげ事業を実施。
- 携帯電話やパソコンのメールで「平成相聞歌」を募集。募集期間は9/1～11/11
- 募集チラシは、町内公共施設、学校、県内報道機関、県内市町教育委員会、県関連機関 県外高校文芸部等に配布。
- 選考：（1次選考）期間内の応募作品の中から選考委員により50作品程度が選ばれる。
（2次選考）一般の方のインターネットによる人気投票の結果を考慮し、選考委員により、最終選考を行う。

最優秀作品1点、優秀作品3点、特別賞10点、四国新聞社賞・香川短期大学賞各5点

- 授賞式（2/10 ホテルアネシス瀬戸大橋）
受賞者のうち出演可能な人は、携帯電話（第8回からスマートフォンを使用）のテレビ電話送受信による賞状の授与を行う。
- 交流会 授賞式後開催
- 除幕式 交流会後受賞作品を刻んだ石碑の除幕（第11回最優秀賞1基、第10回優秀賞1基）

2. 事業実績

応募数： 平成30年度（第12回）7,952
平成28年度（第10回）6,531 平成29年度（第11回）7,926

3. 補助金

190万円/年

目標達成に向けた今後の課題

- ・実行委員会を早めに開催し、イベント内容等を検討する。
- ・記念イベントの一つとして、実施した子ども俳句大会の継続する。
- ・宇多津町民にもっと事業内容をしてもらい、町民からの応募作品を増やすための工夫する。
- 歌碑の設置について
 - ・第11回からは最優秀賞（1基）のみ設置する。

【学識経験者の意見】

- ・宇多津町が全国に発信する独自色の文化事業が、伝統として定着してきた。
- ・すべての優秀作品を少ない移動で簡単に閲覧できるような展示の仕方を工夫してみてもどうか。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティーの育成
施策項目	(1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進
事業内容	① 研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援 ～文化財保護～

平成30年度実施内容
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 文化財保護委員会事業
 - (1) 保護委員会の開催について
平成31年2月21日（木）
 - (2) 報告事項・委員研修など
 - ・文化財保護委員の委嘱について
 - ・宇多津町内の文化財について
2. 文化財保護協会事業
 - (1) 会員数について
県・町会員 31名 町会員18名 計49名
 - (2) 補助金について
年間135,000円 細川頼之研究事業補助金 270,000円
 - (3) 実施事業について
総会研修会として宇多津町文化財保護協会研修委員による「宇多津町の小さな石塔から日本の大きな歴史が見える」と題して講演をいただく。

目標達成に向けた今後の課題

1. 文化財保護委員会事業について
新規に、文化財保護委員の方に参画いただいたことで宇多津町の文化財について研修する。新規に申請がなかったため、指定文化財の審議には至らなかった。
2. 文化財保護協会事業について
文化財保護協会会員が、研修を重ね、宇多津の歴史を会員のみにかかわらず、一般の聴講者にもわかりやすく説明する。自らが研究し、積極的な活動が見られるものの、会員数は減少傾向にあるため、役員・会員からの声掛けが必要。

【学識経験者の意見】

- ・ 宇多津町の文化財保護協会事業に一般聴講者が参加できたことは一歩前進である。町内の文化遺産が一部の愛好者にとどまらず広く町民に理解されるよう、機会の拡大が必要である。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	① いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供 ～女性セミナー～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

男女共同参画社会に対応した社会作りを目指し、女性の視点から講座を開設・実施する。

- 年間活動及び参加者数

(1) 郷土料理教室（鯖の押し寿司）	参加者 28名
(2) 体操教室	参加者 22名
(3) 大島青松園見学研修	参加者 20名
(4) 県外研修（高知県方面）	参加者 32名
(5) ストレッチ教室	参加者 15名
(6) 和食マナー教室	参加者 20名
(12) 公園施設清掃	参加者 28名
- 会員人数
72名（H29 80名）
- 延べ参加人数
165名（H29 325名）

目標達成に向けた今後の課題

- 企画について
講座参加者の声を元に、次年度の講座を企画している。このことから参加者のニーズに即した事業を実施できているものとする。今後も同様の方法で計画していく方針である。
- 会員数・参加者数について
前年度より、講座数は減少し、一講座当たりの参加者数は増減するものの、会員数・参加者数ともに昨年度より減少している。今後は様々な体験活動・学習の機会を提供することで会員数・参加者数の増加を図る。

【学識経験者の意見】

- 前年度より活動内容、参加数が減少したが、行事が精選され、ニーズを生かしていることで有意義な活動ができている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	① いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供 ～宇多津大学～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

高齢者が健康で明るく生きがいのある生活が送れるよう、社会参加及び学習の機会を提供する。

1. 年間活動及び参加者数

(1) 交通安全教室	参加者 51名
(2) 自分の体は自分で守ろう ～自分たちの健康づくり、運動と食生活から～	参加者 58名
(3) 先ず、捨てることから始めよう！ ～収納の工夫～	参加者 55名
(4) 運動教室	参加者 63名
(5) 町外研修	参加者 61名
(6) コーラス	参加者 68名

2. 会員数

118名（前年141名）

3. 行事参加者数

延べ356名	H28年度	404名
	H29年度	390名

目標達成に向けた今後の課題

1. 講座の企画について

香川県消費生活センターが行う「くらしのセミナー」を中心に計画している。講座一覧より、参加者に希望を伺うことで、関心の高いテーマで事業の実施ができているものとする。今後も参加者及び社会福祉協議会と連携し、事業の展開を図る方針

2. 会員数・参加者数について

会員数・参加者数ともに減少傾向にある。会員数・参加者数を増加させるべく、企画内容を見直すことで増加を図る。

【学識経験者の意見】

- 核家族化が進み、若年層が比較的多い宇多津町で、参加数が多く、高齢者の社会参加、学習機会を提供するなど有意義な活動となっている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	② 住民が学んだ成果を住民のために活かす仕組みづくり 「知の循環」

<p>平成30年度実施内容</p> <p>目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。</p>
<p>1. 生涯学習講座</p> <p>①講座内容、実施日数・時間、受講者数</p> <p style="margin-left: 20px;">○健康体操と太極拳 8日(2h/日) 22名 ○映画の窓から見る日本 8日(2h/日) 18名</p> <p style="margin-left: 20px;">○水引で小物やのし袋を作ろう 8日(2h/日) 8名 ○夏休み小学生以下将棋入門 5日(1.5h/日) 11名</p> <p style="margin-left: 20px;">○家庭園芸教室 6日(2.5h/日) 8名 ○健康料理で生活習慣病予防 8日(2.5h/日) 17名</p> <p style="margin-left: 20px;">○ニュースポーツを体験しよう 2日(2h/日) 46名 <u>合計7講座 受講者合計130名</u></p> <p>②募集方法、期間</p> <p style="margin-left: 20px;">方法: 4月広報へ講座要項及び申込用紙を挟み込み、事務局窓口にて申込受付。</p> <p style="margin-left: 20px;">期間: 4月3日～4月21日 3週間</p> <p>2. 香川短期大学との連携事業</p> <p style="margin-left: 20px;">カルチャー講座の開催。(カルチャー講座委託料 400,000円/年)</p> <p>①講座内容、実施日数・時間、受講者数 <u>合計17講座 受講者合計341名</u></p> <p style="margin-left: 20px;">○シニアと音楽好きのための日本の歌を楽しもう 3日(1.5h/日)23名</p> <p style="margin-left: 20px;">○宇多津町の歴史的建造物を巡ろう 1日(2.5h/日)11名</p> <p style="margin-left: 20px;">○暑い夏に備える 食生活について考えよう 1日(2.5h/日)42名</p> <p style="margin-left: 20px;">○大人が楽しむ絵本講座 3日(2h/日)34名 ○異文化交流のつどい 1日(2h/日)11名</p> <p style="margin-left: 20px;">○夏休み宿題お助け講座(染色)1日(3h/日)9名 ○夏休み宿題お助け講座(感想文)1日(2h/日)11名</p> <p style="margin-left: 20px;">○算数のプログラマーになろう 2日(1.5h/日)11名 ○中華料理を楽しもう 1日(2h/日)30名</p> <p style="margin-left: 20px;">○はじめての俳句づくり 3日(2h/日)7名 ○哲学カフェ 1日(2h/日)3名</p> <p style="margin-left: 20px;">○知って得する介護のこと 3日(1.5h/日)8名 ○みんなでバドミントン 3日(2h/日)28名</p> <p style="margin-left: 20px;">○楽しくイタリアン 1日(3h/日)20名 ○英会話で楽しくティータイム 5日(2h/日)9名</p> <p style="margin-left: 20px;">○おひな祭りのお菓子 1日(3h/日)40名 ○卒業式には生花でコサージュを 1日(2h/日)18名</p> <p>②募集方法</p> <p style="margin-left: 20px;">5月より香川短期大学のHPへ記載、ユープラザ、町教育委員会にて募集チラシを設置し配布。</p>

<p>目標達成に向けた今後の課題</p>
<p>○講座数・内容・回数検討</p> <p style="margin-left: 20px;">講座内容によって受講者数にばらつきがある。受講生を対象としたアンケート調査等を参考に、公民館運営審議会において、ニーズに合った講座内容の検討を十分に行う。</p> <p>○出席率向上の工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">欠席が続く受講生に対し、案内送付等講師と相談のうえ、出席率を上げる手立てを講じる。</p> <p>○受講後の支援</p> <p style="margin-left: 20px;">講座終了後は受講生が学んだことを活用できる自発的なサークル活動の結成支援を行う。</p>

<p>【学識経験者の意見】</p>
<p>・ 参加者の興味、関心を高める多彩な講座が組まれていて、町民の学習意欲を高めている。</p>

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	① 指導者養成並びに活動支援体制づくり ～大松杯バレーボール大会～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 開催目的

第48回国民体育大会を機に、宇多津町名誉町民である故大松博文氏のバレーボール競技における偉業を称えるとともに、バレーボール競技の振興・発展、また、町民と他県の方々との交流を図ることを目的として開催。

2. 開催日時 会場

歓迎セレモニー・開会式 平成30年10月6日(土) 15:00～ ユープラザうたづ
試合 10月7日(日) 8:30～ 宇多津中学校体育館

3. 参加チーム

16チーム (中国・四国各県のママさんバレーボール連盟から推薦されたチーム。全国ママさんバレーボール大会各県予選第1位チーム及び宇多津チームのほか、東北・関東・東海・北信越・近畿・九州代表)

4. 大会運営協力者

400人
県ママさんバレーボール連盟審判委員25人、
体協・スポーツ団体部員144人、役場職員20人、婦人会20人、
商工会女性部20人、
宇多津中学校教諭6人・生徒82人(開会式・閉会式のプラカード係、
開会式演奏、放送係、飲み物の販売、試合の点係)
宇多津北小学校教諭8人・生徒58人(歓迎セレモニーにおける演奏・演技)
坂出商業高等学校女子バレーボール部顧問教諭1人、部員16人(線審)

5. 大会運営費

町補助金 2,700,000円
(公財)OHKスポーツ振興財団香川 170,000円

目標達成に向けた今後の課題

・運営内容の検討

全国大会等では、参加チーム選手による相互審判が取り入れられている。協議役員の負担を軽減するためにも本大会での導入を検討する。

・観戦者の増加

多くの住民に観戦してもらうための周知方法を検討する。

【学識経験者の意見】

- 大松博文氏が東京オリンピックで偉業を達成して既に半世紀が経過。宇多津町がその偉業を風化させないように実施してきた全国型のバレーボール大会が、運営の巧みさもあって大成功となっている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	① 指導者養成並びに活動支援体制づくり ～激励制度～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 趣 旨 : 宇多津町におけるスポーツ及び文化芸能の振興を図るため、大会に参加する個人または団体に激励金を交付する。
2. 要項改正 : 従来は奨励金としてスポーツ部門にのみ交付していたが、生涯学習課においては文化・芸能部門での活動も、生涯学習や社会教育の一環として住民に対し奨励していることから、文化・芸能部門の該当者にも同等な支援をするようにした。その際奨励金を激励金に改め、さらに個人及び団体への激励金年間限度額を明確にした。平成24年度4月より実施、平成27年度には、旅費の補助として交付しているという考え方により、義務教育課程への加算は取り消した。
3. 交付人数 : 【以下実績】

平成23年度実績:スポーツ部門	205名	総額	1,333,000円
平成24年度実績:スポーツ部門	95名	文化芸術部門	0名 総額 634,000円
平成25年度実績:スポーツ部門	165名	文化芸術部門	4名 総額 1,007,000円
平成26年度実績:スポーツ部門	218名	文化芸術部門	0名 総額 1,278,000円
平成27年度実績:スポーツ部門	142名	文化芸術部門	0名 総額 550,000円
平成28年度実績:スポーツ部門	201名	文化芸術部門	0名 総額 769,000円
平成29年度実績:スポーツ部門	109名	文化芸術部門	3名 総額 676,000円
平成30年度実績:スポーツ部門	97名	文化芸術部門	4名 総額 725,000円
4. 交付件数 : 平成23年度実績:36件 平成24年度実績:33件 平成25年度実績:42件
平成26年度実績:43件 平成27年度実績:37件 平成28年度実績:50件
平成29年度実績:51件 平成30年度実績:51件

目標達成に向けた今後の課題

○周知方法

大会に出場する児童、生徒の保護者には学校から制度を周知。町HP・広報誌へ記載。

○祝い垂れ幕の件数について

全国大会に出場する個人・団体には祝い垂れ幕を作成しているが、作成件数が多くなる場合は、補正予算等の予算対策を講じなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・ 文化芸術部門をもっと積極的に奨励してはどうか。
- ・ 町内児童生徒のスポーツ、文化芸術への活動意欲の向上に繋がっている。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	② スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実 ～スポーツの推進～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

町民の健康増進、体力向上を目的に、スポーツ・レクリエーション事業を企画し開催する。開催後も、教室等で学んだ運動を自主的に継続して行うことができるようになることが目標。事業については、町スポーツ推進委員（15名 男性10名・女性5名）が中心となって指導する。

○指導・協力事業について

町：○健康ウォーク 5/13（日） 岡山県蒜山高原 参加者37名

- 「ニュースポーツを体験しよう」&町民体カテスト 9/8（土）、22（土） 町民体育館
 - ・9/8 カローリング 参加者25名 講師によるルール説明・実技指導・試合
 - ・9/23 ドッジビー 参加者21名 ルール説明・実技指導・試合
- 町民体カテスト 参加者20名 スポーツ推進委員7名が指導

○美軸教室 11/18（日） 保健センター4階 参加者50名

県：○スポーツ推進委員研修会 5/12（土）
障がいスポーツ等の実技指導を受ける。

中四国：○中四国スポーツ推進委員研修会 1/19（土）・1/20（日）
他県市町との情報交換、スポーツ指導を受ける。

目標達成に向けた今後の課題

- ・毎年開催しているニュースポーツについて、本町に定着した競技に絞り、参加者数を増加する工夫が必要。
- ・推進委員の高齢化に対応すべく、H31年度より新委員(30～40代、3名)委嘱予定。
- ・他者からの推薦等により、推進委員の世代交代も並行して進めていかなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・ 推進委員に30代の若い人を委嘱するのは大変すばらしいことだと思う。
- ・ 町民の健康、体力の向上を目的とした行事が組まれており、元気な町づくりに役立っている。
- ・ 町民の横のつながりを強め、輪を広げるという意味で意義がある。

平成30年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの育成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	② スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実 ～ 子どもロードレース ～

平成30年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

平成27年度から開催日を1月の第二土曜日に変更。申込方法も事前申込のみとした。
今回の参加申込みは180名（昨年度214名）で、宇多津町の児童も全参加者数の半数を超える95人の申し込みであった。

《 第67回宇多津子どもロードレース大会 》

日 時 平成31年1月19日（土）午前8時30分～

会 場 宇多津小学校グラウンド

参加人数 男 107人 女 73人 合計 180人

運営協力者 体協スポーツ団体部員30人、役場職員7人、青年会2人

運 営 費 町補助金 344,500円

目標達成に向けた今後の課題

○運営内容の検討

- ・ 体協陸上部への協力体制を充実していく。
- ・ 多くの児童に参加してもらうための工夫を検討していく。

【学識経験者の意見】

- ・ 町内の児童が多数参加し、多くの運営協力者などにより大会が安全かつ円滑に運営され、成功を収めている。
- ・ 伝統の行事がここまで継続されている意義はきわめて大きい。